

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2021年10月1日 217号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



第21回国際協力青年奉仕隊（続報）



サッカー



塗装



壁画

**子供たちのために、叶えられた夢！**

本紙先号で第21回国際協力青年奉仕隊活動の第一報をお伝えしました。今号はその続報です。準備と実行に今回も尽力された佐野道准氏の報告から抜粋・編集したものです。

7月19日 8時からの開会式に、生徒、先生、父母、村の有力者たちが集まりました。コロナ禍の故にあまり多くの人は集まりませんでした。主だった人は来てくれました。オリンポからは校長先生も駆けつけてくれました（オリンポからマリア・アウシリアドーラまで110kmある）。村の生徒たちはパラグアイの民族ダンスで歓迎してくれ、オリンポの青年たちは歌を歌い、日本の青年たちはダンスと「Eyes on Me」の歌をスペイン語で披露してくれました。そして日本、オリンポ、エスペランサの青年たちが皆で「成和青年歌（スペイン語）」をジェスチャー付きで披露しました。この歌は今回の青年奉仕隊のテーマソングとしてオリンポやエスペランサの青年たちも歌えるようになりました。お昼からは本来子供たちと交流する時間だったのですが、朝の式典があったので、午後は子供たちが登校しませんでした。またこの期間は震えるほど寒い日々でもありました。でも青年たちは元氣よく、近くの広場でサッカーやバレーボールに興じていました。

ここでの問題はシャワーです。学校にシャワーがないとここで、近くのチャペルのシャワーを使うために簡易温水器を取り付けたのですが、水圧が不足で、水がシャワー器から出ない状況でした。そこでどこか近所の家のシャワーを借りられないかと交渉したのですが、驚いたことに、この人々は誰も温水のシャワーの設備を持っていないとのこと。仕方なく女性たちの使う分だけ、食当のグロリアさんが家で水を温めてくれ、それをバケツに入れてシャワー室に持って行って体を洗ってもらいました。マリア・アウシリアドーラでの生活の問題点は、寒かったことと、温かいシャワーが浴びられないということだったと思います。

7月20日 とても寒い朝だったので、焚火をして暖まりました。焚火の周りで皆、体操やゲームをして楽しみました。朝食後、学校食堂に壁画を描くグループ、校舎の壁塗り部隊、そして校庭の清掃部隊に分かれて作業をしました。壁塗りや清掃部隊は昼前に終わって、昼からは学校に来た子供たちと交流することができ、きれいになった校庭で縄跳びやサッカーを楽しんでいました。（四面に続く）



## レダ基地スナッフ



帰国する高橋君を皆で見送る。船着き場にて、8月27日



レダで活動する青年たちが集合。公館前にて、8月20日



パクーの人工孵化のために、親魚を選別。8月24日



川久保君(左)からオニテナガエビの説明を受ける青年たち。8月18日



豚の顔を見つめる高橋君。今、子豚は83匹いる。8月18日



育てたカブと大根を手に、ヌワビシさん。美味しい煮物や漬物に。



スイカの芽が出ました〜！と嬉しそうな大元氏。8月23日



弱っていた木に新芽(5年ぶり)が生えた！と喜ぶ北中氏。9月7日



# 持続可能な福地建設をめざして(4)

## 健康な生活と福祉の促進を

和田賢一



今日の世界が直面する難問のひとつは、新型コロナウイルス感染症の蔓延に対する闘いでしょう。中国の武漢市から発生したこの感染症は、あつという間に地球全体に広がり、これまでの感染者数は約2億2527万人、死者

464万人に達しています。(本年9月14日現在)

わが国の累積感染者数は約165万人で、これまで約1万6900人の方々が亡くなりました。退院された方は151万人です。(本年9月14日現在)。新型コロナウイルスの猛威は留まることがなく、デルタ株に置き換わってからさらに急激に蔓延し、入院できずに10万人以上が自宅療養し、容体の急変によって亡くなられている人もいます。

政府は感染予防策とワクチン接種の拡大によって、食い止めようとしています。が、まだ解決の確かな道筋はみえていません。

健康に関連するSDGsはゴール3で、「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」としています。コロナ禍で私たちは、この項目の意味の重要性を改めて実感しています。

このゴール3のターゲットは9項目あります。要約すると次のようになります。

●2030年までに、世界の妊婦の死亡率を削減し、新生児の死亡率も低下させる。

●エイズ、結核、マラリアなどの感染症に対処する。非感染症疾患による若年死亡率を予防や治療により3分の1減少させる。

●薬物乱用、アルコールの有害な摂取を含む、物質乱用の防止・治療を強化する。

●世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。家族計画など健康促進などの計画を押し進める。

●すべての人が基礎的な健康サービスを受けられ、安価な医薬品、ワクチンを受けられるようにする。

●有害化学物質による大気、水質、土壌などへの汚染による死亡、疾病件数を大幅に削減する。

これらの項目を見ると、人類の健康上の問題点をSDGsは的確に指摘していることが理解できます。

歴史的に人類は、健康な生活を送り続けるために、さまざまな疾病との闘いを繰り返してきました。具体的には病気の解明と治療法の開発や、病気の原因の根絶をめざしてきたのです。世界的に脅威を与える疾病の発生のたびに、何万人という人命が失われていく現実に向かってくる医療従事者の姿に頭が下がる思いになります。

今回のコロナ禍によって、私たちは通常の生活ができなくなりました。ここで、改めて普段の生活の尊さを知りました。コロナ禍で諸活動の不自由さを余儀なくされたことは言うまでもありませんが、感染防止のためにマスク着用などの生活習慣の変化によって、より健全な生活を送ることができるようになったことも事実でしょう。

インドでは、手で食事を取るのが通常なのですが、食前に手を洗うことが常識になりつつあるとのニュースを聞きました。また日本製の爪切りがヒット商品になっているとも伝えられていました。インドは約44万人余りのコロナ死者を出しています。生活習慣の改善に、大きな代償を支払ったといえましょう。



パラグアイ川の岸で朝の体操。

しかし、個人や家族の生活の改善だけでは、健康な社会をつくることはできません。コロナ感染症克服を例にとると、ワクチン接種と治療薬開発だけでは、解決できないというのが識者の見解です。

SDGsの観点から分析すると、多くの分野との関連を重視しなければならぬことがわかります。新型コロナウイルスの健康危険因子の把握と警告はいうまで

もありません。さらに肥満など個々人の基礎疾患への取り組み、定期的な健康診断、たばこやその他の薬物の排除。そして、社会的な視点による衛生的な水へのアクセス、下水処理の完全実施。家庭医制度の普及、専門病院の特化、健康保険制度の完備。要は、個人と社会制度の密接な関わりなくしては、できないということです。



心身共に元気いっぱい。

米国では公的健康保険が完備されていないことが、コロナ感染拡大を阻止できなかった要因の一つと指摘されています。日本では掛り付け医と病院の関わり方が不十分であるとも言われています。これらの問題は国家の在り方や運営の方法に関わってくるもので、政府、地方自治体をはじめとするさまざまな機関や組織が関わってきます。長期的な視野に立った上での制度の改善が必要です。

さて個人の健康を考える上で、一つの「格言」を引用してみましよう。「健全な精神は健全な肉体に宿る。」身体が健康なら精神も健康であるという意味らしいです。果たしてそうでしょうか？ 原典は古代ローマの詩人・ユウェナリスの言葉です。彼は社会の矛盾を痛烈に批判した著作「風刺詩集」の中で、「健やかな身体に健やかな魂が願われるべきである」と語っているのです。彼は弁護士でもあったために、人間のさまざまな犯罪を目にしました。そこで彼は人生の在り方を、「健全な肉体を活かすべきは、健全な精神を具現化するための行為ではないのか」と語り、世に問うたのです。

さて私たちは、自身の健康を保持する意味は、「健全な精神が健康な身体をつくり、健全な身体は健全な社会を造り出すためにある」と考えることもできましよう。(つづく)

## 青年奉仕隊

(一面より続く) 学校食堂の壁にはラパチョの木が描かれ、これに子供と青年たちの手形を版面のように押していききました。こうしてピンクのラパチョの花がとてもきれいに描けました。(写真左上) 子供たちも自分の掌がラパチョの花になることをとても楽しんでるように見えました。

7月21日 きょうは午前中に閉会式。マリア・アウシリア・ドーラの代表者、校長先生、父母代表などが、口々に感謝の言葉を述べ、奉仕隊の参加者一人一人に感謝状をくれました。その後は全員で「成和青年歌」や「Eres Tu」を歌って終わりました。閉会式が

終わると、トラックにすべての荷物を積み、4台の車でマリア・アウシリア・ドーラを後にしました。壁画グループは最後の仕上げをするために後に残りました。

レダに帰ってきたグループは昼食を取り、暖かいシャワーを思う存分に浴び、またプールでの水遊びを楽しんでいました。壁画グループも、午後にはすべてを終えてレダに帰ってきました。校長先生は、私たち全員が帰るまで廊下で見ていて下さり、何度も何度も私たちに感謝していました。

以前から子供たちのために遊具が欲しいと言っていた村人たちの夢が叶えられ、そして3日間青年たちが一生懸命に学校のために、子供たちのために尽くしている姿が心に焼き付いたようでした。

日本の青年奉仕隊員たちはもちろんですが、オリンポやエスペランサの青年たちも誠心誠意奉仕しようとしていて、その姿には私自身も感動しました。

7月22日 午前中は恒例の魚釣り。大小4台のボートに全員を振り分け、午前中いっぱい魚釣りをしました。少なくともピラニアはたくさん釣れます。大きなバクーやスルビを釣った人もいました。



昼からは、彼ら一人一人の記念樹を植えました。今回は青年たちの希望もあって、グレープフルーツの苗木を植えました。

そして夕食を終えた後、レダで働く従業員を含めて、皆が大ホールに集まって打ち上げ大親睦会。初めに発表したカタリーノの感想やオリンポの青年たちの感想はとても感動的なものでした。今回のこの経験は一生忘れないし、オリンポに帰りたいと涙を流さんばかりに語るオリンポの青年の真摯な言葉にとっても感動しました。真の愛を彼らに伝えたという奉仕隊員たちの真摯な心情が彼らの心の中心に到達した瞬間であつたように思います。

7月23日 出発の日です。朝は荷物の片づけと部屋の掃除。昼食後は最後の別れる瞬間までスポーツや談笑を楽しんでいました。午後3時ごろ、エスペランサ・ボートが発発。オリンポの青年たちは夕方の方のアキダバンに乗って帰っていききました。その瞬間まで別れを惜しんでいた青年たち。いつまでもみんながハグを交わしている光景が印象的でした。

## 第22回ワンデイセミナーのご案内

コロナ禍で再々延期されているパンタナール・ワンデイセミナーですが、現時点では左記の要領で開催を予定しています。感染状況によっては、予定の変更があり得ます。

日時：11月20日(土) 10時受付、16時終了予定

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター、センター棟(小田急線参宮橋駅歩7分、または渋谷駅西口40番乗場よりバス、代々木五丁目下車すぐ)

参加費：2000円(昼食を含む) 当日受付にて

参加を希望される方は、ファックスまたはメールで、①名前②連絡先③紹介者を明記の上、下記の事務局宛てお申し込みください。お問い合わせも同事務局へ。

共催：一般社団法人 南北米福地開発協会

、NPO法人 地球の緑を守る会

## プログラム(予定)

- 「提唱者の思想とレダ開拓の歩み」 講師：柴沼邦彦理事
- 「パンタナールにおける自然林再生と森林農業」 講師：高津啓洋 NPO法人地球の緑を守る会代表理事
- レダプロジェクトの展望：中田欣宏 当法人代表理事
- レポート：レダ基地での体験報告など



## 一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話：044-829-2821

FAX：044-829-2820

支援金振込口座：ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

Eメール：office@asd-nsa.com

ホームページ：https://asd-nsa.com

Facebook：https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

## 会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット(印刷済み)、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。

パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

<https://asd-nsa.com/nk/>

## レダ・プロジェクト紹介用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>